

■日時 平成24年8月23日(木) ■天候 晴れ

天理高校 対 静岡県立静岡中央高校

■球場 明治神宮野球場 第1試合 決勝 ■試合時間 2時間09分 ■備考

■審判 球審:家田 塁審:松山 田中 渡辺

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
天理	近畿・奈良	3	0	0	3	0	1	1	0	1	9	11	1
静岡中央	山静・静岡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4

天理		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
1	中		飯田 佳伸	3	2	1	0	左2	四球		二ゴ		捕犠		三選				
2	左		松下 賢太郎	4	0	1	3	三犠	遊ゴ		左2		投ゴ		投飛				
3	二		田頭 史也	3	1	0	0	四球		三振	三振		左飛						
3	打		牛尾 翔	1	0	0	0								捕飛				
3		二	餘目 航	0	0	0	0												
4	遊		西井 旬進	5	1	0	0	三失		投ゴ		遊ゴ		三ゴ		一邪			
5	捕		山本 侃	5	2	2	2	左3		遊ゴ		左安		三失		右失			
6	三		福澤 眞林	5	0	1	1	三振			二ゴ	投ゴ		左安		遊ゴ			
7	一		小川 正直	3	0	1	0		捕邪		右安	中直							
7	打	一	小阪 慎	2	0	0	0							遊併		二飛			
8	投	右	九島 恒	4	2	3	0		二安		一安		左3		捕邪				
9	右		加藤 幸	2	1	1	0		投犠		三安		左失						
9		投	辰己 優貴	1	0	1	0								左安				
9		右	久米 恭介	0	0	0	0												
合計				38	9	11	6	残塁:7		併殺:1									
備考																			

■バッテリー

投手
九島 恒
辰己 優貴
九島 恒

捕手
山本 侃

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
九島 恒	6	20	0	2	2	0
辰己 優貴	2	7	1	2	0	0
九島 恒	1	4	1	0	0	0

静岡中央		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
1	遊	投	望月 優真	2	0	0	0	右飛			死球		四球			三ゴ			
2	一		多々良 光沙希	4	0	0	0	三ゴ			三振		左直			投ゴ			
3	二		繁田 紘輝	4	0	1	0	中飛			三ゴ			右飛		遊安			
4	捕		杉浦 大地	4	0	0	0		三ゴ		中飛			一邪		右飛			
5	投	遊	川島 敏樹	3	0	1	0		投ゴ			捕飛		遊安					
6	三		井上 亮	3	0	0	0		一ゴ					二ゴ		中飛			
7	左		日高 健太	2	0	0	0			三ゴ		三振							
7		左	金澤 勇士	1	0	0	0									三振			
8	右		近藤 一輝	2	0	0	0			二ゴ			二ゴ						
8	打	右	古郡 芳紀	1	0	0	0									三振			
9	中		井本 匡亮	2	0	0	0				遊ゴ			三ゴ					
9	打	中	渡部 浩太郎	1	0	0	0									右飛			
合計				29	0	2	0	残塁:4		併殺:0									
備考																			

■バッテリー

投手
川島 敏樹
望月 優真

捕手
杉浦 大地

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
川島 敏樹	5 0/3	26	9	3	2	7
望月 優真	4	17	2	0	0	0

■戦評

第59回大会の決勝戦は六連覇に挑む天理高校と48回大会以来2度目の優勝を目指す静岡中央高校の対決となった。両軍ともに1回戦から勝ち上がってきており、今大会は順調に大会が消化されたため互いに4日連戦で迎える決勝となった。天理はここまで3試合に先発している九島に、静岡中央は昨日の準決勝で西宮香風打線を5安打完封した川島に決勝のマウンドを託す。9時2分、家田球審の右手が上がって決勝戦が幕を開けた。先攻の天理は初回、試合開始のサイレンの鳴り止まぬうちに先頭の飯田が川島の初球を捉え二塁打とし早くも好機を作ると適失の間に難なく1点を先制する。さらに5番山本が2点適時三塁打で続き初回到3点を奪う。天理先発九島は序盤の3回を一人の走者も許さない完璧な投球で最高の立ち上がりを見せる。2回以降持ち直したかに見えた静岡中央先発川島に4回、天理打線が再び襲いかかる。7番小川からの三者連続安打で満塁すると一死後2番松下が右翼越えに走者一掃の適時三塁打を放ち6-0と点差を広げる。何とかしたい静岡中央であったが6回まで天理先発九島の前に無安打に抑えられる。7回この代わった2番手辰己から5番川島が自軍の初安打を放つのがやっと。天理は6、7、9回にも相手の失策を確実に得点に結びつけ1点ずつを追加する。9回裏、天理は再びマウンドに久島を送る。1安打を許すものの最後は静岡中央の4番杉浦を右飛に打ち取るとマウンドに歓喜の輪ができた。この試合も終わってみれば9-0と天理の大勝であった。一戦ごとに地力を発揮し磐石の試合運びで天理が六連覇の偉業を達成し4日間の熱戦は幕を閉じた。惜しくも準優勝となった静岡中央は初戦の長尾谷との2日間に渡る戦いをはじめ1番望月を中心とした隙のない走塁で得点を重ね、粘り強く最後まで諦めない野球で優勝した天理同様、大いに熱戦を盛り上げたことを最後に記しておく。